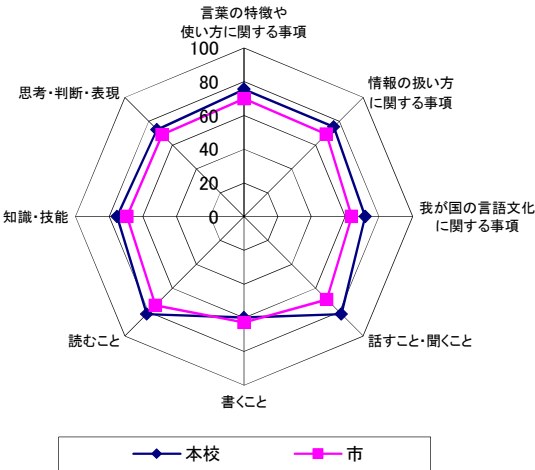


宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.5	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	75.4	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	71.8	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	81.7	69.5	71.5
	書くこと	59.9	62.8	67.1
	読むこと	81.7	74.4	73.7
観点別	知識・技能	75.3	69.4	71.9
	思考・判断・表現	73.0	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

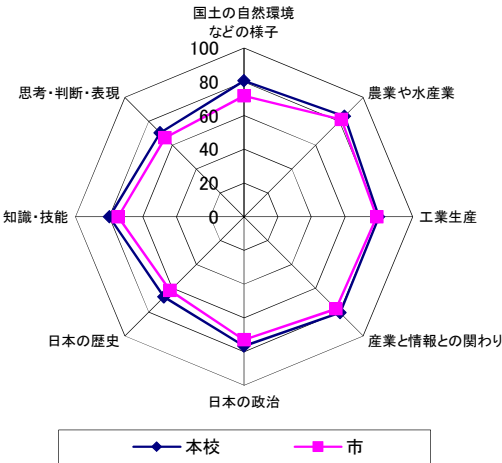
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は75.5%で、市の平均と比べて5.6ポイント高い。 ○漢字を正しく読むことについては正答率が高かった。●正しく書くことについては、市の平均正答率よりは高かったものの、無回答が30%近くに上るものもあった。 ○「文と文の接続の関係を理解している」項目は、市の平均と比べて14.7%高かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書き、熟語の成り立ち、敬語においては、引き続き指導し、さらに力を伸ばしていきたい。
情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は75.4%で、市の平均と比べて6.2ポイント高い。	・説明文の内容を読み取る活動の際、情報と情報の関係について文章構成にまとめる活動を行う。 ・文章を要約する学習を適宜行う。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は71.8%で、市の平均と比べて8ポイント高い。	・言語由来に関心を持ち、和語や漢語、外来語についての理解を深めることができるように、新出漢字の学習の際、漢字の由来や熟語の学習を行う時間を意図的に設ける。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は81.7%で、市の平均と比べて12.2ポイント高い。 ○話の内容を捉えて聞いたり、意図に応じて質問を工夫したりすることはできる。 ●自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えて記述することについては、無回答の児童もいた。	・意図が明確に伝わるような話し方、自分の意図に合った聞き取り方について、教科横断的に指導していく。
書くこと	○自分の意見とその理由を明確にして書いている項目は81.7%の正答率であった。 ●平均正答率は59.9%で、市の平均と比べて2.9ポイント低い。 ●市の平均と比べて、「指定された長さで文章を書く」項目は13.3ポイント、「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」項目は7.5ポイント、「予想される反論とそれに対する意見を書く」項目は5ポイント下回っている。	・条件に合わせて自分の考えを書くことができるように、段落や時数などに合わせて書く学習を意図的に行う。 ・他教科においても、書く活動を意図的に作り、文章の構成を考える機会を設けていく。
読むこと	○平均正答率は81.7%で、市の平均と比べて7.3ポイント高い。 ○「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる」項目と「叙述を基に文章の内容を捉える」項目については、市の平均と比べて10ポイント以上上回っている。	・物語文の指導の際は、初読の感想や疑問から課題を見つけ、読み深める活動を行ったり、登場人物の心情について描写を基に捉える活動を行う。 ・説明文の指導の際は、問いと答え、因果関係について押えながら、文章の構成を捉える活動を行う。

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	80.6	71.6	67.5
	農業や水産業	84.3	81.5	82.1
	工業生産	80.1	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	80.6	77.2	68.2
	日本の政治	76.7	73.1	77.9
	日本の歴史	67.2	62.0	65.8
観点別	知識・技能	79.9	74.6	74.5
	思考・判断・表現	70.3	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

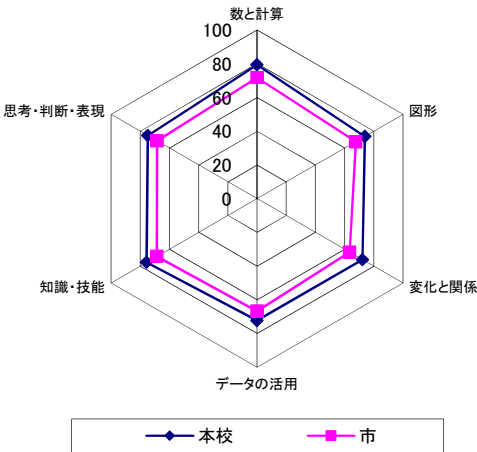
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	市の平均と比べて9.0ポイント高い。 ○日本周辺の海洋名についての理解度は、94.4%と高く、基礎的な知識の習熟が図れていると考えられる。 ●資料から考えたり、地形の名称や位置から、地図を読み取ったりすることに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・資料を読み取る活動に力を入れる。特に、2つ以上の資料を読み取ったり、組み合わせて解答を導き出す学習活動を意識的にやっていく。
農業や水産業	市の平均と比べて2.8ポイント高い。 ○都道府県の位置や農産物の産地についての理解度は、86.1%と市の平均と比べると6.5ポイントも高い。 ●地産地消の取り組みへの理解度は81.9%ながら市の平均より0.6ポイント下回った。	・地産地消や食品表示法、フードロス等などの類似した事項についてしっかり区別してまとめる活動をおこなっていく。授業のまとめは単元の内容だけでなく、関連した内容もあわせてまとめていく学習を心掛けるようにする。
工業生産	市の平均と比べて1.4ポイント高い。 ○写真を用いた資料問題では、市の平均より8.6ポイントも高い正答率であった。研究授業で扱った単元でもあるため、高い習熟が図れたと思われる。 ●自動車工場の作業工程についての正答率は86.1%であったが、市の平均より6.5ポイントも低い。	・作業工程についての学習では、視覚資料(動画)に頼るだけでなく、具体物などを使ったり、順を追って言葉で説明したりする活動をさらに取り入れていく。
産業と情報との関わり	市の平均と比べて3.4ポイント高い。 ○メディアの特徴理解については、市の平均と同じ91.7%の高い正答率であった。 ○●資料に着目してコンビニエンスの発注システムを捉える問題では市の平均より、6.6ポイント高いものの、正答率は69.4%であった。	・資料を読み取り、正しい内容を選択する設問について、課題がある。資料とまとめ文を組み合わせる解答を導き出す学習活動を意識的にやっていく。
日本の政治	市の平均と比べて3.6ポイント高い。 ○国民による政治参加の仕組みについての理解度は、70.8%と市の平均より20.8ポイントも上回った。 ●日本国憲法と基本的人権に関する設問では、市の平均よりそれぞれ3.0ポイント、4.2ポイント下回った。	・日本国憲法については、国の最高法規であることをしっかりと押さえるとともに、すべての法律は、憲法に基づくものであることを繰り返し確認していく。 ・基本的人権の種類・内容について、具体的場面を想定してまとめたり、お互いに質問したり、話し合ったりする学習活動をさらに展開していく。
日本の歴史	市の平均と比べて5.2ポイント高い。 ○基本的な用語についての理解度は高い。 ○●時代ごとの組み合わせた資料から、記述によって解答する設問では、市の平均点より0.8ポイント高いものの、正答率は36.1%であった。	・歴史分野においても、いくつかの時代や内容を組み合わせた資料問題についての課題が見られる。いくつかの単元をまとめたり、互いのまとめを比較して意見し合ったりする活動が、より効果的に学習を進めていくと考えられるので、今後導入していく。

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.4	71.8	76.2
	図形	73.8	67.7	67.8
	変化と関係	72.3	63.4	62.7
	データの活用	72.3	66.7	61.5
観点別	知識・技能	75.7	68.6	70.7
	思考・判断・表現	74.8	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

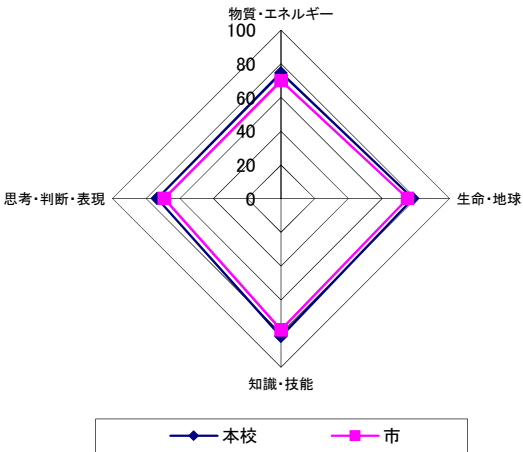
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市と比べて7.6ポイント高い。 ○全ての問題において市の平均正答率を上回っており、特に分数のかけ算・わり算の正答率が高く、91.5～95.8%だった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・少人数指導やコース別学習の体制を続け、理解度によって、きめ細かく指導する。 ・朝の学習や宿題および自主学習で、基本的な計算問題を徹底的に取り組ませる。「はやく かくじつに せいかく」を合言葉に練習する。
図形	平均正答率は、市と比べて6.1ポイント高い。 ○全ての問題において市の平均正答率を上回っており、特に面積と体積の直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では、市の平均正答率より13ポイント高い。 ●線対称な図形について、対象の軸が何本あるかを求める問題では、市の平均正答率より0.4ポイント高いが、56.3%である。	・三角定規、コンパス、分度器の使用の習熟を図るとともに、デジタル教科書やタブレットを使い、作図の技能を高められるようにする。
変化と関係	平均正答率は、市と比べて8.9ポイント高い。 ○全ての問題において市の平均正答率を上回っており、特に速さの単位の関係を理解し、時速を秒速や分速に直す問題では、市の平均正答率より10.6ポイント高い。	・低学年や中学年のうちから、文章題を線分図に表したり、変化を表に整理したりし、多様な見方・考え方を身に付けられるようにしていく。 ・教科書以外の問題や、発展的な学習に取り組むよう授業の展開を工夫する。
データの活用	平均正答率は、市と比べて5.6ポイント高い。 ○全ての問題において市の平均正答率を上回っており、特に平均・データの見方のヒストグラムを正しく読み取る問題では、12.5ポイント高い。 ●半円と四分の一の円を組み合わせてできる図形の面積の求め方を説明する問題では、市の平均正答率より6.1ポイント高いが、平均正答率は40.8%である。	・児童が解き方をじっくり考えて、自分の考えを書いたり、友達に説明したりする場面をさらに多く設ける。 ・算数以外の教科でもデータが活用できるように、教科横断的な学習の充実を図る。 ・データを読み取り、結果のみならず考察をし、相手に分かりやすく論理的に説明できるように段階的に指導する。

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	74.6	69.9	67.8
	生命・地球	78.3	75.1	73.7
観点別	知識・技能	81.7	77.8	78.4
	思考・判断・表現	73.4	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市と比べて4.7ポイント高い。 ○ふりこのきまりや電流のはたらきを調べる実験において、どれを選べば比較対照実験になるかを考える問題では、それぞれ市の平均より14.3ポイント、11.3ポイント高い。 ●アルミニウムと塩酸が反応してできたものとアルミニウムを区別する方法を推測する問題では、市の平均より3.1ポイント低い。	・今後も、どの比較対象実験でも、「変える条件」と「同じにする条件」を確認するときに、何の条件を確かめる実験なのかを確認したり、実験方法や結果の見方が妥当かどうか話し合わせたりしてから実験に取り組ませるようにする。
生命・地球	平均正答率は市と比べて3.9ポイント高い。 ○呼吸のはたらきを記述する問題では市の平均より7.1ポイント高い。また、観察カードの月のようすから、月を観察した時刻を推測する問題では、市の平均より8.2ポイント高い。 ●植物の体に取り込まれたものが、根・茎・葉に運ばれていることを実験の結果から分析する問題では、市の平均より1.3ポイント低い。	・予想や考察をする時間を大切に、経験をもとに考えたり話し合ったりすることを通じて科学的な見方や考え方がもてるように支援する。